レポート1

関東支店

埼玉県さいたま市見沼区卸町2丁目6番19号

●1993年（平成5）　東京営業所、東京支店を経て開設。
●執行役員　支店長　鍋川 博文
●社員数　41名（社員13名・パートナー28名）

全国展開も夢じゃない！ その営業の醍醐味は首都圏ならでは

周辺にはまだ田畑も見られ、晴れた日には2階の食堂から富士山を望むことができる関東支店。
そこでは、ベテラン揃いの家庭用品営業課、売上拡大に猛進する産業資材営業課、
時には営業もこなす物流管理課、そして彼らをしっかりと支える事務担当の面々が今日も奮闘しています。

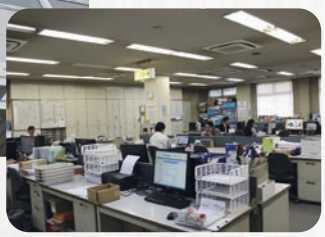
週のはじまりは清掃から いつの間にか美化意識も高くなりました

月曜日は朝8時に出社。ミーティングを済ませた後、全員で事務所、玄関前、駐車スペースを一斉に清掃します。もうかれこれ4～5年は続いている関東支店の習慣です。掃除をしているうちに次第に頭の中がさえてきて、気持ちよく一週間をはじめられるという効果があります。それにいつの間にか、誰もが常に職場の美化に気をつけるようになっていますね。

案内役は、入社20年目の渡邉マネージャーです。

22年目の大改装　姫路城のごとく 関東支店の新たなスタートです

私の入社当時はピカピカの新築だった関東支店社屋も老朽化が進み、さらに東日本大震災（2011年）で傷んだ箇所の修理も必要でした。2015年4月に改装工事を終え、くしくも同時期に平成の大修理を終えた姫路城のごとく、白い外壁が際立つ新築当時のような関東支店に生まれ変わりました。都内から現在の埼玉県さいたま市に移転して22年。支店従業員一同、気持ちも新たに業務に邁進しています。



関東支店のイチオシ！

“関東支店の母”は 勤続20年のベテランパートナー

受発注業務や商品の詳細はもちろん、お得意先様やお取引様の状況から社員一人ひとりの性格まで、支店のことなら何でも把握している、私と同年入社のパートナー・多村さん。支店長が出張時に「多村さん、頼むね!」と声をかけるくらい頼れる存在です。

「どんな些細なことでも“ありがとう”と皆さんが返してくれるので励みになります」と多村さん。大変な時も一緒に乗り越えてきた仲間の一人。これからも関東支店を一緒に盛り上げていきましょう。

案内役のお仕事拝見

産業資材営業課　マネージャー

渡邉　宏之

1995年入社。鍋川支店長いわく、「新入社員当時からどこにでも出せる子」。誰とでもすぐに打ち解けることを得意とする。家庭用品の担当時から積極的に自社商品の開発に関わり、協力会社が多い中国へも何度も足を運んだ。2014年4月より産業資材店舗消耗品を担当。

大手外食企業に積極果敢な営業 都内に自転車がほしいくらいです

関東支店に産業資材営業課が発足して5年。さらに今年から課を統括する立場となり、販路拡大に向けて日々営業活動に励んでいます。外食チェーン店や全国にコンビニエンスストアを展開する企業の本社は、都内にほぼ集中しているので、毎日電車で東京へ。できれば日本橋に自転車を置いておきたいくらいです（笑）。ただ当然のことながら、各企業はすでに大手商社をはじめとした多くの同業者と取り引きしており、そこに割って入るのは容易なことではありません。

MISM（ミズム）商品が 日本中の店舗で使われる日を夢見て

私が担当する店舗消耗品が自社開発商品であることから、最近は卸業というよりもメーカーとしての立場を強く意識して営業しています。いつの日か、誰もが知る外食チェーン店に当社のMISM商品が導入され、全国のヒメプラ社員がそれを見て「あれはうちの商品です」と自慢する・・・。そんな夢を実現するために、これからも商品開発・提案を行っていきたいと思っています。と同時に、産業資材営業課が支店の核となる課に成長し、「部」そして「事業部」に昇格することも目指しています。

あの日の東京営業所

平成2年9月1日発行
社内報「SATURDAYだより」
支店・営業所特集 より抜粋

バブルの余韻漂う東京で 仕事も遊びも頑張っています

我10有余にして酒を覚えるも、今だに酒の味を知らず、夜な夜な味を求めて五反野界隈を徘徊す。東京営業所は、この五反野より徒歩にて25分の所にあります。設立は、昭和59年1月で、当初は田園風景の中に存在した営業所で、隣は竹やぶ、前は田という有様でした。・・・（略）・・・

当営業所の構成は企画6名、営業所員12名、パート16名で社員の平均年齢は、3名を除くと約27才の若い営業所です。なお、社員のほとんどが関西出身で、これまた恋人を求めて東京の夜を満喫（?）しております。・・（略）・・青春まっただなかの営業所で、所員一同仕事に遊びに汗しております。平成4年には関東支店建設という大事業をひかえています。その礎に!!と我と思わん方是非!!　共に汗を流しましょう。

東京営業所　所長

SATURDAY だより　第499号　平成2年9月1日 土曜日発行　発行人 志賀総務部 江口 華

＜支店・営業所特集＞

東京営業所

所長 和智正人

自10有余にして酒を覚えるも、今だに酒の味を知らず、夜な夜な味を求めて五反野界隈を徘徊す。東京営業所は、この五反野より徒歩にて25分の所にあります。設立は、昭和59年1月で、当初は田園風景の中に存在した営業所で、隣は竹やぶ、前は田という有様でした。今では、都市開発の波にもまれて繁ッション（？）といわれる高級住宅街に囲まれています。

当営業所の構成は企画6名、営業所員12名、パート16名で社員の平均年齢は、3名を除くと約27才の若い営業所です。なお、社員のほとんどが関西出身で、これまた恋人を求めて東京の夜を満喫（？）しております。

今後の東京私動産関係者にそなえて東京や営業所間の詳細を記しておきます。

東京駅より山手線（上野池袋行）に乗り秋葉原下車。日比谷線（東京直通電車に乗換）乗り換え五反野下車。駅前よりタクシーにてメゾアロ行きを指示。約2メーターで着きます。

では、この辺りの中で特筆すべき名所交通を紹介します。

東京駅は明治44年に建て、大正3年に2015万坪完成。20日に開業されたレンガ作りの3階建てです。駅正面が東に近高い丸の内ビル群で、南に下がると江戸の名残を残した商店の雰囲気が漂ってきます。

秋葉原は世に名高い家電問屋街で、外国人向けで敷百件の店が並んでその名は海外にもなり響いています。

上野は東北の玄関口で、東北の人には特別の響きを感じる名所です。駅の南には毎の名所で有名な上野公園がひかえており、公園内には動物園、国立科学博物館（何のお所は展示されている）、美術館その他定跡も数多くあります。

両国は相撲のメッカで、高速道路から国技館の屋姿が見れます。隅田川をはさんだ対岸には江戸時代から続く「駒形どぜう」という料理屋もあります。

足立区近辺は、下町情緒を残す風物詩も少なくなく、浅草のはかりそきやの人台の朝顔市等は第一級の強し物です。江戸の盛衰に有名な江戸城もすぐ近くで、その近辺も第1と受け継がれています。

以上ちょっとこころを紹介しましたが、まだまだ紹介していない大場はたくさんあります。

会と眼のある方は是非一度！

平成2年7月（3名新くしという青春まっただなかの営業所で、所員一同仕事に遊びに汗しております。平成4年には関東支店建設という大事業をひかえています。その礎に!!と我と思わん方是非!!共に汗を流しましょう　以上

東京営業所 ◎